

ハーブ残渣で商品企画

実践女子大と大妻女子大妻女子大 生活の木、豊島と連携

実践女子大と大妻女子大は今年、ハーブやアロマ関連商品の企画・製造・販売を手掛ける生活の木の、専門商社の豊島と協業し、商品開発に取り組み産学連携プロジェクトを実施した。両校の3年生21人が横断型で4チームに分かれ、オンラインも活用して毎週、チーム別会議と全体

会議を開き、2カ月かけて製品を企画。コンテスト形式の最終報告会で発表を行い、ヘアクリップと手作りキーホルダーキットを提案したチームが最優秀賞に選ばれた。

実践女子大フアッションビジネス研究室では、3年生のゼミ活動の一環で13年度から産学連携授業を実



両校の3年生21人が横断型で4チームに分かれ商品企画した

施。18年度から女子大教員の連携に発展し、23年度か

ら大妻女子大プロダクトデザイン研究室など3校で、生活の木の協業を開始。3回目となる同社との協業に今回は豊島も加わり、実践から9人、大妻から12人が参加し、2社・2校で産学連携プロジェクトを行った。

今回のテーマは「マテリアルグループ、植物がつかうデザインプロジェクト」。廃棄食材などを染料として再利用する「フードテキスタイル」を行う豊島が、生活の木の生産工程で発生する製品基準に満たないハーブの残渣で染色したテキスタイルを提供。9月下旬に初回の授業で両社が課題を提示し、学生は廃棄予定の素材の循環を目的に、10月からチーム別に提供素材の活用法を考え、市場調査をもとに生活・服飾雑貨の商品を企画した。

最終報告会では、1班はハーブの残渣で染めた便箋や繰り返し使えるレターポーチ、シーリングスタンプシールなど、思いも伝えないレターセットを考案。2班は「人と人をつなぐギフトの残渣で染色したテキスタイル」として、残渣を使った樹脂やビーズ、提供素材のリボンを使い、ヘアクリップと自分で作るキーホルダーキットを提案。3班は残渣と土で堆肥から作るハーブの菜園キットと、残渣について学ぶ絵本のセット、4班は巾着やサウナマットカバー、残渣を使った砂時計やサシエのサウナセットを企画した。

コンテスト形式で審査を行ったのは初めて。生活の木の担当者は「廃棄物を価値ある商品に変えるという理念を深く理解し、すぐ商品化できるところで、魅力的な案が揃った。ギフトやサステイナブルなコンセプトなど観点も様々で面白い」と講評し、普段使いしやすい2班の案を最優秀賞に選出。担当教員も「期待以上の企画ばかりで、製品化につなげていきたい」と話した。